

2020. 4. 20

# 九条の会・へぐり ニュース

NO.52



事務局 吉川平一 宅

三里 591-3

TEL 45-0896

m-ad yoshikawa62ml@kcn.jp

## 5・3ピースウォーク は中止します。 (開始以来初の中止)

2005年に始まり15年間、雨にたたられることもなく憲法記念日には「平和憲法をまもろう」「憲法九条世界の宝」と毎年行進するのが当たり前になっていました。しかし、新型コロナウイルスの感染を1日も早く収めていくためには致し方ないことと中止の判断がされました。

聞くとところによると、四天王寺もお寺創建は593年、創建以来はじめてコロナのために閉めるそうです。それに比べると大したことはないですね、たかが16年。今年の「ピースウォーク」は中止しても、九条の活動は「コロナウイルス」に負けてはおれません。

安倍さんは憲法改定することをやり遂げることなく退陣はしないという信念のもとにこの大変な事態のなかでも、コロナ問題を利用して「改憲」をしようと必死になっているのにはあきれてしまいます。4月7日の衆議院運営委員会で憲法に「緊急事態条項」創設を「極めて重く大切な課題」「国会の憲法審査会の場において与野党の枠を超えた活発な議論が展開されることを期待する」と延べています。自民党は改憲案で「緊急事態条項」創設を盛り込み、緊急時には国会の審議を飛ばして内閣の政令で人権制限が可能にできるようにしようというものです。「緊急事態」を利用して憲法改悪を加速しようとする安倍さんの本音は見え見えです。またそれをけしかける日本維新の会の存在にも大いに注意がいりますね。

私たちは「憲法を変えるのではなく、政治を変えろ!」「憲法を守り、国民の生活・命をまもれ」としつこく望み、しつこく運動します。

若葉台 稲月敏子



「日本の青空」シリーズ

## 「明日へ」——戦争は罪悪である

上映会に160人が鑑賞

事務局 吉川平一

1月26日に開催した九条の会主催「明日へ」の上映会へは160名の方々に鑑賞していただきました。「私の生きてきた時代と重なり、涙がとまらなかった。」など、30名を超える方から感想を寄せていただきました。以下は寄せられた感想文です。(紙面の都合で一部省略させていただいております。)

映画上映にあたり、世話人会ではお寺さんにもぜひ観ていただきたいと、町内のほとんどの寺院へ案内しました。当日は行けないが、とカンパを下さるお寺もありました。

4月から新しい文化センターが開場されますが、安倍改憲(((許さないためにも、九条の会・めぐりが、大きく、広くなった会館で催し物ができるように引き続き頑張りたいと思います。

### 感想文

久しぶりに涙が出ました。いい映画でした。(河合町M)

9条の会の活動に拍手を送りたい。今後も大いに活動を続け

またこのような映画上映会を開催してください。(I)

罪悪、敵などの言葉は誤解を招き、避けるほうが良いと思う。野蛮な言葉だと思う。

(奈良市M)

「戦争を否定する」憲法を守ることは大切です。(中略)今回の映画は戦争援助とその誤りを悔いた人間を描いた物語で、それについては良心の痛みを感じず戦後政界にいた人もいます。人の在り方についてきちんと考えられる人づくりが大切です。(K)

昭和6年生まれ私の自分史をふりかえっているようでした。しっかり軍国少女だった私でした。戦争だけはありませぬように、いつも祈り続けています。

昭和7年12月に生まれた道を振り返る思いです。戦争に反対だったクリスチャンの父にもいろいろ影響されてよかったと思っています。

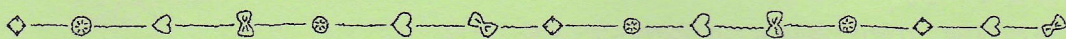
自分の思いと同じで涙が止まりませんでした。母も103歳まで戦争反対、世界の平和を



写経一枚一枚に書いていました。

戦争中、落語家になることや音楽家になることもよく思われなかった。世の中すべてお国のためにと動員されていきました。

反戦僧侶の生き方は現在今日も重要な意味があります。もっと若い人に見てほしいと思いました。



## 投稿

### 憲法違反の米軍基地

椿台 多田

大阪のど真ん中の靄公園はかつて米軍の飛行場だった。1952年の講和で返却されたのだが、沖縄普天間は1972年の復帰後も占領されたまま。世界一危険な飛行場！当たり前だ。元々村の中心部、民家も役場も学校もあった。そこに暮らしている人々を蹴散らして作った。

「普天間を返して欲しけりゃ辺野古に新基地を作れ」とは盗人ただけしい。大浦湾は青サングやジュゴンなど貴重な自然の宝庫、日本初のホープスポット（護らねばならぬ自然）に設定されている。しかも軟弱地盤。莫大な金と15年をかけてもできる見通しはない。なのに無理押しするのは「なら普天間でしゃあないやないか」と居座りの口実とするためか。このまやかしを米軍も安倍政権も臆面もなく語る。

大阪のど真ん中に米軍が居座り軍機が飛び交う様を私たちは許せるか？そんな馬鹿な！という現実がいまだに沖縄にはあるのです。危険な普天間は直ちに運用停止にすれば良いだけの話である。

### 宮城まり子さんとねむの木村のこと

福貴 奥村

宮城まり子さんが亡くなりました。

子供のころ、「ガード下の靴磨き」という歌が好きだった。世の中にはこんな暮らしをしている少年少女たちがいるのだ、と、いわば、初めての、社会性の芽生えだったかと思う。

昨年、静岡での母親大会に参加した折、掛川にある「ねむの木村」を訪れた。深い森の中に広がる肢体不自由児の施設、そして、かわいいキノコの形をした子供たちの美術館、吉行淳之助の文学館などがある、広大で温かさで静謐のあふれる空間だった。特に、子供たちの絵に感動、その澄んだ色調と、額縁を超えてさらに広がる空間への夢、光、彩に圧倒された。暗い戦争を経て手に入れた障がい児童たちの権利が花開いている。私財をなげうってこの施設を作り、育て上げた故人に敬意をささげたい。



## 我々は彼らのウソを知っている。

榎台 くまさん

我々は彼らのウソを知っている。  
彼らも彼ら自身がウソをついていることを知っている。  
彼らは我々が彼らのウソを知っていることを知っている。  
我々も知っている。  
彼らは我々が彼らのウソを知ることを知っていることを。  
それでも彼らはウソをつき続ける。



上記はロシアの民衆の間でささやかれた小話だそうですが、今、中国、香港でささやかれているとのこと。

なんとまあ、そっくりそのまま安倍政権下の日本にあてはまる！官邸や官僚が見抜かれているウソを知りつつウソを言う。だが問題はウソと知りつつ容認する国民が少なからず居ることだ。



## 「改憲発議に反対する全国緊急署名」について

福島 勲（三里）

安倍首相は、任期中の改憲「私の手で必ず成し遂げたい」と記者発表（2019年12月9日）しています。実際、コロナを利用して、緊急事態条項の創設について憲法審査会での議論をあまり、改憲に利用しようと、その執念を隠してはいません。

このような情勢のなかで、発議阻止「緊急署名」にどう取組むかが問われています。今後のスケジュールを考えれば、オリンピック開催を含めコロナの終息は不明ですが、年内の通常国会～臨時国会、2021年の通常国会と9月任期の間に解散・総選挙が行われることは

ほぼ確実です。首相は、改憲発議に必要な3分の2議席確保のために全力をあげてきますので、私達はこのたたかいに必ず勝利することが決定的です。

緊急署名の目的は改憲を許さないために、先ず「発議阻止」に焦点を合わせているのが今回の特徴です。これまで3000万署名に協力いただいた人を含め、改めてお願いし、一大運動を展開し改憲反対の大きな世論をつくっていきましょう。

